



行政評価局政策評価課長

辻 寛起

TSUJI Hirooki

広い視野で。
そして国民のために。

**2018
~2020**
**2020.7
~現在**

**総務省行政管理局管理官
(独立行政法人評価総括担当)**

総務省行政評価局政策評価課長

社会経済情勢が激しく変化中、行政が自らの取組を的確に評価し、見直し・改善につなげていく政策評価の取組がますます重要となっています。独立行政法人の評価、そして政策評価が的確に実施されるよう第三者的な立場からチェックし、行政がより良くなるよう尽力しています。

**2017
~2018**

総務大臣秘書官

野田総務大臣兼女性活躍担当大臣の秘書官として、総務省の関係業務の他、内閣府・男女共同参画局の業務を担当しました。一省庁の立場にこだわらず、国全体としての広い視野で政策をお考えになる大臣の下、常に緊張感を持ちつつ、大きなやりがいのある日々を過ごしました。

**2011
~2017**

総務省行政管理局副管理官・企画官、内閣人事局(行政組織担当)企画官

行政管理局で組織や定員の査定業務に従事し、内閣人事局の発足に立ち会いました。政府全体の組織・定員管理の方針の策定や、政府全体の最適配置を考えながら府省ごとの定員数を決定するなど、査定業務を中心に、行政管理局と内閣人事局を行ったり来たりの6年間でした。

**2009
~2011**

財務省主計局調査課課長補佐、主計局主査(経済協力2係)

政権交代のダイナミズムを財政当局の一員として経験しました。財政状況の国際比較など財政に関する内外の調査や、実際の予算査定業務に従事し、我が国の財政全体をマクロの視点で捉え、俯瞰的に考える、貴重な経験となりました。

**2007
~2009**

内閣府地方分権改革推進委員会事務局参事官補佐

地方分権改革推進委員会の発足時に総括補佐として出向。国と地方の役割分担の在り方について、有識者の先生方や各府省、地方自治体からの出向者等と、侃々諤々の議論を行いました。立場が変われば、モノの見方は全く異なるし、絶対の正解は無いということを実感しました。

**2005
~2007**

総務省大臣官房管理室公益法人行政推進室参事官補佐

大阪から戻ってきて、大臣官房管理室で、公益法人の指導監督等のルールの運用や、公益法人制度の改革などに携わりました。いわゆる「天下り」の問題を含め、官と民の間にある非営利法人の在り方について、深く考える機会となりました。

**2003
~2005**

大阪府豊能町助役

大阪府の北端の町、豊能町で助役として勤務しました。焼却施設から出たダイオキシンの処理問題が町を二分し、その対応に追われる日々でしたが、住民の顔が見える市町村行政の難しさ、その醍醐味を味わい尽くす2年間でした。

**1999
~2001**

総務庁長官官房総務課・行政管理局

行政監察局で係員時代を過ごした後、総務庁の官房総務課及び行政管理局で中央省庁等改革に対応しました。官房総務課では「総務省」の設置に向けた準備を、行政管理局では政府全体の組織管理部局として様々な調整を行い、現在につながる中央省庁の体制づくりに携わりました。

これまでのキャリアを振り返って

「霞が関批判」の高まりから行政の「改革」が政府の最大の課題となっていた1997年、行政をより良くしたい、国民のために仕事がしたいという想いを抱いて総務庁に入ってから、20数年がたちました。行政管理や行政評価を中心に、そうした想いを形にできる仕事に一貫して携わってきましたが、特定の利害、省益にとらわれることなく、国全体の利益、国民の利益を常に意識しながら仕事をやってこられたことは、大きな魅力であると感じる一方で、専門性が高い各府省と議論するためには、幅広い知識を身につけて理論武装する必要がありますし、様々な立場からの意見を調整して、取りまとめるためには、バランス感覚が重要となります。

行政全般に広く関心を持ち、行政をより良くしたいという強い想いを持つ皆さんと、一緒に仕事ができる日をお待ちしています。

